

「学習課題の設定」に時間をかけ過ぎない！

授業観察を行う上で重要なことは、全教師が「主体的で対話的で深い学び」の授業を理解していることだ。そのためにはこれまでの知識習得型の授業から転換することが重要だ。パラダイム転換だ。すなわちアクティブ・ラーニングとは何かの正確な知識と実践が必要である。

その実践の一つが、「学習課題の設定」だ。

学習指導要領総則第3教育課程の実施と学習評価

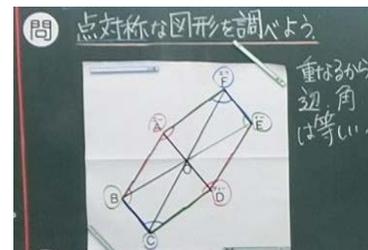
1 主体的で対話的で深い学びの実施に向けた授業改善

(6) 児童生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童生徒の興味関心を生かした自主的・自発的な学習が促されるよう工夫すること。

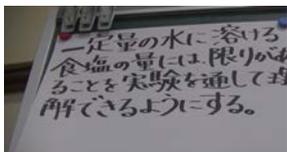
この文言から学習課題は、児童生徒が選択することに誰しもが気付く。学びは子供たちが興味関心を示してこそ始まるのでこの文言を大事にしたい。だが、この学習課題の設定に時間がかかり過ぎて、最後の振り返りまでいかない授業をたくさん見てきた。学力の向上には、欠かせない「振り返り」が行われていないのだ。そこで「学習課題の設定方法」を探ってみた。すると、子供たちが意欲的に授業に取り組むための学習課題の設定方法は、他にもあることに気付いた。付けるべき力や単元全体の目標を子供たちと確認するところから始めることもその方法だ。これまで定番であった学習課題の設定方法「教師の腕の見せ所のプレゼンだけを行う」ことを取り払う必要がある。考えられる学習課題の設定方法を提案する。

① 資料や学習問題から学習課題の設定

社会や算数・数学などで課題設定時に使う方法である。資料や問題を提示する。「学習課題」は、「問いの共有」で出された子供の発言を受けて教師が設定する。そのことにより、学習課題が子供自身のものとなる。



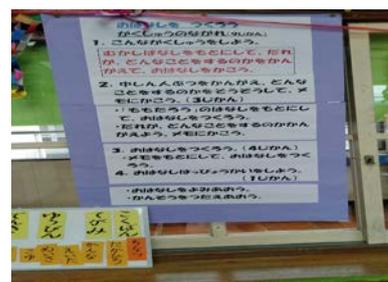
② 「付けるべき力（本時のねらい）」の文言から学習課題の設定



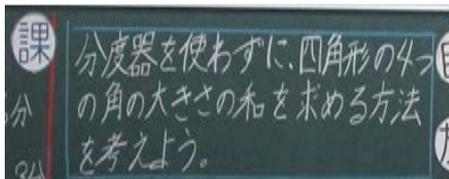
今までのように教師のリードで前時の振り返りから入るだけでなく、本時の授業の目標や評価基準や単元全体の目的等を子供たちと確認して課題の設定を行う。すなわち、「つけるべき力」の文言から学習課題の設定を行う。

③ 単元全体の一覧表から学習課題の設定

国語や総合的な学習などで行われる手法である。単元全体の目標が一覧表となっているので、本時の目標を見つけやすい。その目標から学習課題の設定を行う。



④ 教師による学習課題の設定



子供たちが学習課題を選択する機会を設けるが、課題を設定することが難しい時は、教師による学習課題の設定も一つとなる。

学習課題の設定には他にもいろいろな方法がある。大切なことは、これまでのように教師の効果的なプレゼンショーにこだわらないことだ。課題設定の目安の時間は、3分間位で行いたい。できるだけ、まとめや振り返りに時間をかけたいからだ。そして、子供たちに書くことの楽しさを感じさせるとよい。そのことがB問題克服や無答ゼロに繋がると思う。